

# カトリック山形教会報

# かすみ

カトリック山形教会報

1

2018.1.28

カトリック山形教会

〒990-0039 山形市香澄町2丁目11-15 TEL.023-622-3574 FAX.622-3590  
ホームページ <http://www.catholic-yamagata.com/>



## 2018年の始まりにあたって — 弱さを大切にする 共同体 —

カトリック山形教会主任司祭 千原通明

新潟教区のガイドラインにしたがって、山形教会の新しい「小教区規約」が承認され、3月から施行されることになりました。これにより、部会制度が再編成され、新たな出発を迎えます。そのために、まず聖パウロの言葉に耳を傾けたいと思います。

多くの部分があっても、一つの体なのです。目が手に向かって「お前は要らない」とは言えず、また、頭が足に向かって「お前たちは要らない」とも言えません。それどころか、体の中でほかよりも弱く見える部分が、かえって必要なのです。〔中略〕神は、見劣りのする部分をいっそう引き立たせて、体を

組み立てられました。それで、体に分裂が起こらず、各部分が互いに配慮し合っています。一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ、一つの部分が尊ばれば、すべての部分が共に喜ぶのです。あなたがたはキリストの体であり、また、一人一人はその部分です。(1コリント12章20-27節)

教会はキリストの体です。山形教会の共同体も、キリストの体として弱い部分を持っています。が、その弱いところ、つまり高齢や病気などで積極的に教会と関われないような方々を大切にできるような共同体に成長できるよう、祈ることから始めたいと思います。



## 臨時総会で「新規約」を承認

12月10日(日)、ミサ後に規約の改正のための臨時総会が開催され、「カトリック山形教会小教区規約」と「小教区における教会財産の管理に関する規程」が承認されました。

この規約の改正はカトリック新潟教区のすべての教会が対象となり、「小教区規約制定のためのガイドライン」に添って、それぞれの教会の実情に合った見直しが行われ、山形教会では千原神父を中心に4人から成る小教区規約制定委員会を立ち上げ、4月8日の第1回の会議から臨時総会まで、何度も手直しを加えながら作り上げてきました。

山形教会にはすでに専門部が存在しており、大幅な変更を行う必要がなかったことで臨時総会でも混乱することはありませんでした。最も大きな違いは「総会」部分で、これまでは

会長が招集し最高議決機関となっていました。新しい規約では小教区運営について自由に意見を述べる機会、小教区評議会で審議され主任司祭の承認を得て決定された事項について小教区全体に周知する機会として小教区総会を設置する。小教区総会は議決機関ではないが、主任司祭並びに小教区評議会は、総会で表明された信徒の意見を十分に尊重し小教区の運営にあたらなければならない。…と、なりました。3月4日に行われる定例総会後は新体制となり、「代表者委員会」は「小教区評議会」になります。また、信徒は可能な限りいずれかの部会に所属し、教会活動を行うこととなりますので、皆様のご協力よろしくお願いたします。

(カトリック山形教会 信徒会長・小林雅人)



## 待降節黙想会 新たな霊性を求めて“食の視点から”

12月3日(日)ミサ終了後、新津教会主任司祭の伊藤幸史神父様より、今日における教会現状について、新たな信仰の道が必要であり、一つの道として「食」を通して神様との交わりを深める道すなわち「食の霊性」に解決のヒントがあるので

はないか?ということからお話を頂きました。お話の内容を簡単に紹介したいと思います。

◎現代社会の心の闇である自己否定感

最近、社会の中で話題になっているものに薬物依存症と

いう病気がある。大きな原因の一つとして、自分を受け入れられず大切に思えない感情、すなわち「自己否定感」を抱えていることが挙げられるという。それは「あたかも、みえない」自己否定の刃で自分の胸をグサグサ刺しているようなもので苦しく辛い。そしてその苦しみから救われるのは薬物をやっている時だけ。こうした依存症という病気は薬物だけでなくアルコール、ギャンブル、性的依存、スマホなどがある。これら依存症の原因の一つとして「自己否定の刃」が挙げられると思う。その苦しみから救われるのは〇〇をしている時だけ。

### ◎心の闇に救いをもたらす「食」

こうした自己否定感に陥らない(陥らせない)ためにはどうすれば良いか。端的に言えば「貴方が大切(私は必要)」という生への肯定感を育むこと。具体的には「存在の世話」が答えの一つであると私は考えています。

「存在の世話」という言葉は、哲学者の鷲田清一氏の使っている言葉で「家庭という場所」そこで人はいわば無条件で世話を受ける。理由や条件なしに、自分がただここに居るといふ、ただそういう理由だけで世話をしてもらった経験がたいに人にはある。そういう「存在の世話」この経験が、将来自分がどれほど他人を憎む事になろうとも最後のギリギリのところまで人への(信頼)を失わないでいさしてくれる。そういう人生の肯定感情がなければ、人は苦しみが堆積する中で最終的に死なないでいる理由を持ちえないであろうと思われる」ここで鷲田氏は「存在の世話」から人生への肯定感情が育まれると指摘しています。こうした「存在の世話」の最も大切な

一つが、私は「日々の食」だと思うのです。なぜなら人は食べなければ存在できないからです。食こそが「存在の世話の中心」といえるでしょう。それによって「生の肯定感がはぐくまれる」というならば、日々の食こそ自己肯定を育む根本なのです。希望の光だと考えているのです。

### ◎カトリックは「食」の宗教

聖書には、イエス様が「罪人」といわれていた人々と食事を共にした場面がたくさん出てきます。イエス様はご存じだったと思うのです。目の前にいる「罪人」や悩める人々の心の底に「神からも見捨てられているという強い自己否定感が渦巻いていたことを。そして食卓こそ、そんな彼らに「そうではない。神様はそんなあなたを愛してる」と伝えるのに最もふさわしい場であることを。最後の晩餐も同様でした。やがて自分を裏切り、極度の自己否定感に苛まれる弟子たちに、「そんなあなたを愛してる」と究極の自己肯定を伝えるためでした。こうしたイエス様の姿をあがめパンとぶどう酒という“食べ物”を御聖体として大切にすることをカトリックこそ「食の宗教」といえるでしょう。だからこそ、私達カトリック教会は、現代社会において「食」を大切にすることを使命があると思うのです。自己否定感という心の闇を抱える現代日本社会に「食卓」とおして「貴方が大切」という自己肯定メッセージを伝えるために、そしてその源である神のいつくしみを伝えるために。「食の宗教」であるカトリックにおいてミサをはじめ「食卓」こそ愛の肯定メッセージを伝える福音宣教の場なのですから。(幼連だより、伊藤神父様の特別講座より抜粋) (広報部 柴田博)



## 山形県宗教者懇話会平和の祈り

2017年10月25日(水)11時から天童市の若松寺において各宗教関係者の方たち110名が集い「東日本大震災並びに各地災害犠牲者慰霊・復興祈願」のお祈りが行われました。

若松寺は、天童市街地より東となる鶴沢山に708年「行基」により創建され860年に「慈覚大師」が現在地に観音堂を移転された国の重要文化財です。最上三十三観音の第一番札所として名高く、花笠音頭でも「めでためでたの若松さまよ」と歌われているように古くから縁結びの観音様として多くの人が訪れるところで、鐘楼付近からの眺望は素晴らしく天童市街が一望できます。

会長挨拶は、山寺立石寺住職、清原浄田師より山形県宗教者懇話会の発足について、昭和61(1986)年、教皇ヨハネ・パウロ二世の呼びかけにより、イタリア・アッシジで開かれた「世界平和祈りの集い」、その精神を継承するために翌年開催された「比叡山宗教サミット」、その後10年の節目に「山形県宗教者懇話会」が発足。今年で20年目を迎えたことやその間の活動を交えながら話されました。また講話として若松寺の住職、氏家榮脩師は当寺の開山の経緯そして平安時代から伝えられてきた「縁結びの神」であることを人々に十分にお知らせするために地元の方々と苦労されたことをユーモア交

じりで話されました。また「世界平和祈りの集い」発足後30年の今こそ「平和のために参加し祈ることが大事」と話されました。

その後、各宗教団体の心のこもった熱心な祈りがあり、キリスト教関係は、聖公会聖ペトロ教会の涌井康福牧師とカトリックの信者7人で、はじめのことは、全員での聖歌・ごらんよ空の鳥・平和のお祈り・主の祈り・犠牲者慰霊復興の祈り・涌井牧師の祝福で終わりました。最後に235年の天明年間に作られた古い鐘を各宗派代表がついて平和を祈願しました。

(広報部)



## 仙台あけの星会、山形教会巡礼

2017年10月24日、北仙台教会ラトゥール・レイモンド神父様をはじめ100名の方が山形教会へお見えになり、合同ミサが捧げられました。ミサは各典礼奉仕について参加全教会の信者さんが分担されて進みました。またミサの中で山形教会、矢野副会長より「何年かぶりの聖堂いっぱい信者さんの中でのミサに大感激しています」と歓迎の挨拶、そして明けの星会佐藤会長からは「今日のためにいろいろと準備して下さい

大変ありがとうございました」とお礼の言葉を頂き、交流が行われました。

東仙台教会の阿部正子さんに、仙台あけの星会についての紹介と山形巡礼についての感想をお願いしました。その歴史と活動内容は規模的には違っても大に見習うべきものがあるように思います。阿部さん、ありがとうございました。

(広報部)

## 「山形教会巡礼で思ったこと・あけの星会紹介」



### カトリック東仙台教会 阿部正子

私ども「あけの星会」の山形教会巡礼におきましては、千原通明神父様はじめ信徒の皆様の温かいお心遣いのご協力によって実現できましたことを心より感謝申し上げます。

山形教会建築は信仰の歴史を、また聖堂は先人方から祈り継がれている厳かさの中に、優しく私たちをお招きくださる主キリストのいつくしみに満たされていると感じました。共にミサをお捧げしながら、主の愛と平和と希望の絆の下に繋がれている喜びや、私たち一人ひとりが神の計画に招かれていることを思い起こすことができましたこと、神に感謝でございます。帰路のバス中ではミサ司式のラトゥール神父様とあけの星会員が、山形教会の皆様と一緒にミサに与かり交流できたお恵み、消せない思い出に残る巡礼となったことな



ど感謝の言葉で満ちていました。今後も「聖母訪問」にならない信徒の交わりを深め、信仰の喜びを分かち合えるよう聖霊のお導きを願い祈ります。有難うございました。

「あけの星会」について紹介させていただきます。

☆由来

昭和28年、平塚神父様のご指導により、カトリック信者の親

睦を目的に、仙台連合婦人会としての母体が作られた。

昭和38年、「あけの星会」の名のもとに塩釜教会も加わり仙塩地区8教会婦人会の全員が会員となり、親睦と内的向上を目的にカトリック仙塩地区連合婦人会(あけの星会)を創立し、現在に至る。

☆組織

・各教会より役員3~4名を選出し、役員会を毎月開催。会長(教会順番制とし任期1年)、副会長、会計、書記、監査(4ヶ月交代の当番月の役員)で運営している。

・宮城県在住の司祭に霊的指導を仰ぎ、役員会には毎回出席願っている。

・日本カトリック女性団体連盟(日カ連)に正会員加盟。役員から理事1名を選出。

☆活動内容

総会、黙想会、親睦会(巡礼)、福祉施設訪問、世界祈祷日参加、あけの星会援助基金、ベルマーク収集、日カ連への参加等の活動を続けている。東日本大震災以降、津波被災地・南三陸町フィリピン女性家族・福島原発被災地への支援活動を他団体と協働で行っている。また、日カ連基本テーマ「神のみ旨に基づく家庭づくり」における活動の3本柱「家庭」「いのち」「召命」にも取り組んでいる。

※2018年5月21~22日、日カ連第44回新潟総会開催のお知らせとお誘い。菊地功司教様の講演があります。テーマ「いのちのまなざし」 — なぜ教会は人をたすけるのか — 以上、報告致します。

(2017年10月27日 カトリック東仙台教会 阿部正子)



## カトリック山形地区信徒大会開催

来年度に開催される新潟教区信徒大会の前年度にあたり、11月12日(日)県内5教会、総勢78名が“幸田和生”東京教区補佐司教を迎え山形県舟形町のカトリック新庄教会でおこなわれました。最初に小林雅人山形県信徒会長より挨拶で同じ県内ながら各小教区の信者たちが集まる機会が少なく、こういった機会に祈りとともに多くの情報交換が行われることを希望されました。その後、千原神父様より幸田司教様の紹介があり、現在、原町教会におられ司教団の仕事として福島原発の被災者支援に従事されておられること、また今回発行された「いのちへのまなざし」【増補版】の改定作業の責任者であられること、そして以前、埼玉教区にいた時にある仕事をご一緒したこともあり、私達県内の信者さんが同メッセージについてより理解を深めそれを生活に生かしていくために

今回幸田司教様にお願した経緯を話されました。

幸田司教様は忙しいなか、私たち山形地区大会のために別紙『いのちへのまなざしを生きるために』(別紙)とパワーポイントでの資料を準備して下さい、初版発行以来16年間で、驚くべき、あらゆる分野での社会の変化について、データを用意され、私たちはどうあるべきか?について説明され、また問いかれたと思います。新聞、テレビ等での諸問題に対して慣れてしまい、またか!と他人事のようになってしまう私達(失礼)にとって幸田司教様が特に心にかけて話されたことは、私達の生活の場で身近にある問題であり常に気を配っていくことが必要と思いました。幸田司教様が準備して下さいました資料がありますので、大会へ出席出来なかった方で必要な方は広報部に申込下さい。(広報部)



## 山形聖マリアこども園バザー



新園舎になって、2回目のバザーが、10月14日、好天に恵まれ開催されました。

園舎で焼き上げたメロンパン販売には、お客さんの長蛇の列ができ、またフィリピンの食べ物のお店や、カレーのお店も大盛況で、こども園、教会、地域の皆さんとの交流ができて「皆がひとつ」になれた瞬間だと思いました。 (広報部)



## ローマからのお客様

さる10月29日、イエズス・マリアの聖心会の副総長で、コンゴ共和国出身の、カミール・サブ神父さま(写真中央)が、当教会へおいでになり共にミサを捧げられました。

修道会のローマ本部の司祭で、友部での管区総会への出

席のための、はじめての来日ということでした。短い時間でしたが、ミサの後のティーパーティで、千原神父さまの通訳で、しばし歓談されました。

(広報部)



## 聖母被昇天ミサ 2017年8月15日

### ルルドからの行列

今年の聖母被昇天のお祝いは、久々にルルドの前でのロザリオの祈りから始められました。山形聖マリアこども園の2年間の新築工事の関係でルルドは小さくなりましたが形はほぼ同じような形で残され、日本でも有名な彫刻家である桜井祐一氏が作られたマリア様も昨年汚れた塗装を落とし新たな姿に、そしてこの日のためにきれいに掃除された夕暮れの刻、ろうそくを手多くの信者さんのお祈りと聖歌の中で聖堂への行列をすることが出来ました。大変ありがとうございました。大きな感謝です。  
(広報部)

### 祝賀パーティで二人のミュージシャン

ミサ終了後ヨハネ館で祝賀会が行われました。福利厚生

部を中心とした皆様からのご協力による御馳走が並ぶなか、年に一度のアルコール持参のパーティが始められました。御馳走、お酒等を頂きながら歓談の進む中、恒例、千原神父様のギターが始まりましたが、考えていなかった意外な(失礼)お二人がデビューしてくれました。お一人は6月に洗礼を受けた鈴木誠也さん。ギターを抱え自分で作詞・作曲された歌を熱唱されました(Uチューブにも出ています)。もうお一人は市中博さんです。ビートルズの「レット・イット・ビー」をゆっくりと情感をこめて歌い上げました。今後、楽しみなお二人です。そしてフィナーレは満を持しての横山GGさん、千原神父様のギターでジャンバラヤ! 軽快なリズムに合わせほろ酔の皆さまはステップを踏みながらの手拍子、最高の盛り上がりで祝賀会を終了しました。準備そして後片付けをして下さった皆様。大変ご苦労さまでした。楽しかったです。  
(広報部)

### 代表者委員会 から

現在、規約改正に伴い、新たに各部会の部員募集を行っています。連絡網などの作成もありますので、必ずいずれかの部会に所属をお願いします。

### 広報部 から

山形教会報「かすみ」の原稿を募集しています。各行事に参加した感想や、記事内容のご提案などもよろしくをお願いします。